

地方独立行政法人市立東大阪医療センター第2期中期目標（案）  
に寄せられた意見と市の考え方

意見番号	意見該当項目	意見の概要	市の考え方
1	第2-2-(2) 院内環境の快適性の向上	<p>単に「誰もが利用しやすい」とのみ記載するのではなく、「多様な利用者の特性を理解し、障害のある人もない人もすべての人が利用しやすい」などのようにバリアフリー、ユニバーサルデザインを意識した記載にしてはどうですか。</p> <p>具体的には「誰もが利用しやすい」とは手話通訳の常時配置などの方法で情報保障をすることにより聴覚障害者が病院を利用しやすくするなど含むものですか。</p>	<p>第2期中期目標では、「第2-2 患者満足度の向上(2)院内環境の快適性の向上」の「イ 施設の維持補修を計画的に行うと共に、誰もが利用しやすい環境を整備すること。」のように「誰もが利用しやすい」環境の整備としていますが、これは市立東大阪医療センターに対して障害者や高齢者への配慮、多言語対応といった様々なニーズに対応した病院運営を行っていただくことを求めたものです。今後市立東大阪医療センターでは、この第2期中期目標を受けて、第2期中期計画を策定し具体的な取組み内容を定めていくこととなりますが、今回いただきましたご意見を参考に、院内環境の快適性の向上に向けた取組みを検討するよう医療センターに対して申し伝えいたします。</p>
2	第3-2-(2) 人材の育成	<p>「コミュニケーション能力の向上」とは単に相手の話を聞く能力を養うといったものではなく日本語以外の言語、日本文以外の文化に対する理解をも深め、すべての利用者との円滑なコミュニケーションを目標とするものですか。</p> <p>具体的には職員が簡単な手話を覚えるなどにより聴覚障害者とのコミュニケーションをはかるなどのコミュニケーション能力の向上に努めるということがわかるような文章にはできないですか。</p>	<p>第2期中期目標では、「第3-2 人材の確保と育成(2)人材の育成」の「職員の職務能力・コミュニケーション能力の向上など役割に応じた多様な研修による人材育成を戦略的・計画的に行うこと。特に、職員の意識改革を図る措置を講じること。」のように「コミュニケーション能力の向上など」としてはいますが、これは障害者や高齢者への配慮、多言語対応といった様々なニーズに対応すべく医療センター全職員のコミュニケーション能力の向上が必要なものと認識したうえでの記載としております。今後市立東大阪医療センターでは、この第2期中期目標を受けて、第2期中期計画を策定し具体的な取組み内容を定めていくこととなりますが、今回いただきましたご意見を参考に検討するよう医療センターに対して申し伝えいたします。</p>